

令和4年度 第3回 大阪市立墨江丘中学校 学校協議会 実施報告書

校園名 大阪市立墨江丘中学校
校園長名 林 憲治郎

日 時	令和5年3月16日 (木) 18時30分~		
場 所	大阪市立墨江丘中学校		
出席者	委員など	村田 望(会長) 吉野徳一郎(委員)欠席	西田 麻希(副会長) 中谷 亨(委員)
	校園	林 憲治郎(校長)	橋口 徳治(教頭) 島谷 裕美子(学校元気アップ地域本部)
	区役所	住吉区役所 教育文化課 課長代理 中野泰裕	
議題	(1) 運営に関する計画最終反省報告 (2) 学校(自己評価)アンケートの結果について (3) 学校関係者評価(最終反省評価)について (4) 学校支援(「学校元気アップ地域本部事業」)について (5) 質疑応答 (6) その他		
協議要旨	協議の結果 ○各委員の出欠確認 ○学校協議会会长挨拶 ○学校長あいさつ (1) ○教頭より 学校運営に関する計画の最終反省について説明 ・大阪市教育振興基本計画の3本の柱について、各項目の具体的計画についての数値結果を報告した。 ・チャレンジテスト、全国運動能力調査についての数値についても、全国、大阪市、大阪府、本校の数値結果を比較検討した。		意見の概要 ○各委員の確認 (教頭より) ○運営に関する計画での数値目標が妥当な数値であるのかを検討した。 本校の生徒の数値目標と大阪市の中でも高く、学校の授業、習い事、学習塾などの比率からも他校との比較として平均以上である。 ○村田委員より チャレンジテストの平均点が市、府ともにほぼ平均以上だが、点数の格差の分布はどうなのか?との意見をいただいた。 (教頭) 少少の格差はあるが、こうしたテストは平均点より底辺にいる生徒の底上げがポイントであり、本校は特に教員は今回のテストでは底上げをポイントとして取り組んだ。

		<p>(校長より) 上位層をさらに上位にとの考えもあるが、今現状は、上位層が頭打ちになっている。</p>
(2)	○ 学校評価アンケートについて 過去3年間の数値との比較を行った。 教職員、生徒、保護者の三者の比較、また項目について、三者が乖離しているところについて意見交換を行った。	<p>○学校長より 学校評価アンケートについての意義、目的について説明を行った。 数値的な指標がすべてではないが、こうした数値をもとに、様々な分析を行い学校運営を進めていく必要がある。 また、保護者、生徒、教職員の意見が乖離している部分、学校の教職員が「肯定的」に思っているものの、生徒、保護者との数値に開きがあるものは、学校の課題として向き合っていきたい。</p>
(4)	○学校元気アップについての年度報告を行った。	<p>○課題である読解力の向上について、図書館の開館の在り方について、今後学校の図書館が世代間交流のように、保護者、地域の方にも使えるようにするために、公設民営化のような仕組みが作れないか検討しているという報告があった。</p> <p>○学校長より 読書銀行の取り組みについて説明を行った。様々なIT関連の発達が目まぐるしいものの、「めんどうなこと」は大切であり、力になること、今後も本に親しむ取り組みを行い、読解力の向上、資料を読み取る力など様々な場面で「きっかけづくり」本に親しめる「仕掛け」づくりを進めたい。</p>
(3)	○学校評価について	<p>(教頭より) 学校評価について、今後の学校運営についての意見をいただきたいので、アンケートの記入をお願いした。</p>
(5)	<p>質疑応答 ○校区内のPTA等の設置掲示板 委についての撤去について</p> <p>○部活動の地域以降について (中谷委員より)</p>	<p>○劣化が進んでおり、危険であり、町会等と話を進めて使用していないものは撤去していく方向で考えたい。</p> <p>(中谷委員より) ○今後の部活動の地域以降についての情報交換を行った。部活動指導員の活用はどれくらい進んでいるのか? (教頭) 本校6クラブで外部の指導員が指導しています。</p>

		<p>○今後の部活の在り方が気になるのでまた情報があれば教えてください。</p> <p>○部活動拠点校方式などについての意見交流を行った。子どもたちの放課後の居場所づくりとして考えてほしい。</p>
協議資料		<p>1. 「大阪市立墨江丘中学校 学校協議会次第 2. 「大阪市立墨江丘中学校 学校運営に関する計画・最終評価アンケート」 3. 学校関係者評価について 4. 令和4年度 元気アップ資料 5. チャレンジテスト等 中学校のあゆみ テスト関係の評価結果について 6. 全国学力学習調査資料 全国運動能力調査の資料 7. 学校評価アンケート結果 過去3年分について</p>
	傍聴者 なし	